

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1072100314
法人名	特定非営利活動法人 かしわ
事業所名	グループホームかしわ
所在地	群馬県高崎市箕郷町柏木沢586-5 (電話) 027-371-5240

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年3月29日

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 6人	常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~31,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	3名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 81歳	最低 61歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院・吉原クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム内は明るく家庭的で清潔感がある。窓から見える景色も素晴らしく、快適な居住環境である。理事長、管理者、職員は介護に関するベテランが多く、また、職員の離職がほとんどないため、入居者と職員は馴染みの関係を構築しており、安心して生活することができる。地域との交流も積極的に行っており、入居者がつくった雑巾を公共施設に寄贈したり、ホームの敷地内にゲートボール場を整備して地域に開放するなど、特色ある取り組みを展開している。また、家族全員を運営推進会議のメンバーとして、運営に積極的に関与できるよう働きかけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の内容を前向きに検討し、敷地内にゲートボール場を整備し地域に開放したり、入居者が手作り雑巾をつくり公共施設に寄付するなど、地域の中に根をおろす努力を伺うことができる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を行うことの意義について、理事長、管理者、職員は十分に理解している。皆で意見を出し合い、運営推進会議にも諮り、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の構成メンバーは、家族、区長、ボランティア、市職員、理事長、職員で構成されており、会議は3か月に1回開催されている。ホームから、運営経過、行事、評価結果等についての報告を行い、意見を求めている。敷地内に設けたゲートボール場の地域への開放についても、運営推進会議上で区長等と協議されている。市からは制度の具体的な内容について、職員や家族に対して説明をしていただき理解を深めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の面会時に、ホームでの生活状況や健康状態等を報告し、来所できない家族には、電話で報告している。家族からは、ホームに対する感謝の気持ちが伝えられることが多く、本人の好きなようにさせて下さい等の意見があり、運営に反映させ、ゆったり自由に暮らせるように取り組んでいる。家族がホーム以外の機関等へ苦情を表出できる場所として、国民健康保険連合会や市町村の窓口を重要事項説明書に明記していただきたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎日の散歩で、近隣の人たちと気軽に声をかけ合っている。地元の神社の催し物に参加したり、隣町の行事にも出かけ、地域の人とも交流を深めている。今後、敷地内に整備されたゲートボール場がさらに地域に活用されるようになり、交流が深まることが期待できる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「ゆったりと自由で安らぎのある人間としての尊厳が保たれた生活を目指しています」を掲げ、「心の触れ合いができる団体として地域社会に認知されるよう日々努力を重ねています」と、方針を打ち出している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホール中央の神棚の下に、大きく書かれ掲げられており、介護の現場から常に確認できるようにしている。管理者と職員は、理念を共有し、ゆったりと自然の暮らしができるよう日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎日の散歩で、近隣の人たちと声をかけ合っている。また、地元の神社の催し物に参加したり、隣町の行事にも出かけ、地域の人との交流を深めている。入居者の手作りの雑巾を、市役所・コミュニティーセンター・公民館等に役立ててもらおうと寄贈したり、ホームの隣にゲートボール場を造り、地域の人とのふれあいの場になればと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、運営者・管理者・職員全員が理解している。自己評価は職場会議で意見を出し合い、管理者がまとめ運営者も確認している。外部評価の結果を報告し、前向きに検討、入居者が手作り雑巾を作成し公共施設へ寄贈したり、地域とのつきあいを深めるためにゲートボール場を準備し、交流の場作りとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、3ヶ月に1回開催している。構成員は、家族、区長、ボランティア、市職員、理事長、職員である。ホームからの経過報告や行事報告、評価結果の取り組み状況の報告を行い、ホーム隣のゲートボール場を使って、地域の人達との交流を深める場になってほしいと区長に提案している。また、市からは制度改正の説明をしていただき理解を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の申請、生活保護や後見人制度の手続きの支援等で市へ出かけている。また、グループホームの空き情報等頻繁に連絡をとったり、今後、グループホーム入所対象となる方の問題等を一緒に話し合っている。市の主催する農業祭には入居者と参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の方の面会時に、ホームでの生活状況や健康状態等を報告し、来所できない家族には、電話で報告している。行事に参加し買い物をする場合は立て替えをし、運営推進会議議事録と併せて家族に郵送で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議後の時間を利用し、家族が話しやすい工夫をして意見、不満、苦情等を聴いている。家族から、「本人の好きなように生活させてください」等の意見があり、運営に反映させ、ゆったり自由に暮らせるように取り組んでいる。	○	家族がホーム以外の機関等へ意見や苦情を表出できる場所として、重要事項説明書に国民健康保険団体連合会や市町村の窓口を明記していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は少なく、顔馴染みの職員が介護できる状態にあり安定している。代わる場合は、引き継ぎを十分に取り、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、全職員が交代で参加し、年1回は研修できるようにしている、研修後は、研修報告書と共に職場会議で報告し、職員で共有している。職員は日々の介護を通して、先輩職員や看護師資格のある職員から技術やアドバイスを受け働きながら学んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入している。また、他のグループホームからの招待で「和太鼓」の演奏に入居者と共に参加し、見学や交流をしている。同業者からの交流、連携をすることで、よいものを取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人、家族から希望や生き甲斐、生活歴等を聞き見学して頂いている。雰囲気馴染んで不安なく楽しくホームで暮らしていけるよう努めている。利用後は、無理強いないで声をかけながら徐々にホームに馴染めるよう配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員で共有しており、昔話を聞きながら、もっている知恵を話してもらっている。雑巾縫いの糸を髪の毛でしごと、髪の毛が縫いやすくなる等の技を教してもらっている。台所では職員と一緒に食器洗いをしたり、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、日々の関わりの中で聞き、表情などから把握するよう努めている。困難な場合は、家族に聴いたり、本人本意に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族、関係者や職員の意見を聞くと共に、毎日の個人記録や介護日誌等参考にして介護計画の案を作成し、全職員の参加するケース会議で検討して作成している。介護計画は家族に郵送して確認印を頂いている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング用紙に記入し、ケース会議で検討している。3ヶ月ごとに見直しがされ、必要時随時見直しをしている。歩行できていた方が退院後歩行困難となった場合や食事摂取困難になった場合には調理を工夫しとるみをつけたり等、検討結果を家族が確認後、計画の見直しや変更をして、現状に即した計画としている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月1回は、入居者全員で外出に出かけている。受診の送迎や受診後の薬を取りに行く等柔軟に対応している。また、役所への各種手続き等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医を決めている。月2回の往診時や通院時には日々のデータで情報を報告している。診察の結果や薬変更時は家族に連絡している。歯科往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで「できること」「できないこと」を見極め、入居者、家族、関係者との話し合いのもと、重度化や終末期は対応しない方針であり、運営者、全職員は方針を共有している。急変時等は、嘱託医に相談し指示のもと、家族に連絡して入院していただき、適切な医療を受けるよう支援している。入院後は面会に行き早期退院に向けて支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で個人の尊厳を守り、一人ひとりの生活に合わせた声かけをするよう努めている。記録等個人情報は事務室の棚にあり外部には持ち出さないこととしている。退職後も漏洩防止を徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にゆったりと過ごせるように支援している。外出したい方、こたつでテレビを見ている方、テーブルで新聞を読んでいる方、自室でくつろいでいる方と、それぞれ自由に過ごされている。月1回化粧ボランティアが訪問され、化粧していただき楽しんでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態にあわせて調理し、一人ひとりの好みを聞きメニューに加えたり、入居者と一緒に育てた野菜を食卓にのせている。入居者と一緒に準備をしたり後片付けを行っている。手作りおやつも一緒に作っている。職員は入居者の摂取状況を見ながら一緒に食事をして、歌が出たり、笑いが出たりと楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、1日3人がゆっくりと入浴できるよう支援している。以前に夜の入浴も試みたが、昼間の方がいいと入居者の意見があり、昼間だけの入浴としている。一人ひとりの希望を聞きながら入浴が楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かして、野菜作りをしたり、食事の準備、洗濯物たたみ、モップ掃除、雑巾縫い等楽しみながらできることを支援している。来客に、入居者がお茶の接待をして活躍する場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日出かけており、地域の中でコースがあり、入居者が自由に出かけ職員が後から追いつく場合もある。庭へ出て外気浴をしたり、日なたぼっこをしているときもある。季節の外出行事は、入居者の負担にならないよう、距離や場所を配慮して出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は、全員が理解している。日中鍵はかけていない。職員は安全面には常に注意して支援し、入居者は散歩や畑、庭に出ている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、入居者を安全に避難できる方法の習得に努力している。しかし、地域の人々の参加が得られていない。	○	地域の人々の参加が得られていないので、引き続き働きかけていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は業者から取り寄せているが、献立は季節の野菜を取り入れ栄養バランスを考え支援している。また、一人ひとりの状態にあわせてロミをつけたり調理方法等工夫している。食事摂取量や水分摂取量は記録し、水分は季節に応じて増減し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、ゆったりとした配置となっている。調理室が中央にあり食事の準備や後片付けが身近で行われ、入居者と職員が常に会話ができるようになっている。一角には畳コーナーがあり、入居者が横になってくつろげる場所となっている。ホールの窓は大きく日当たりもよく、遠くの間々や町並みが見えて季節を感じられる。壁には行事等の写真が飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓は大きく日差しが入り明るい。使い慣れた箆笥等の家具や家族の写真が飾られたり、誕生会でのプレゼントのスリッパや散歩時摘んできた花が飾られ、思い思いの過ごしやすい部屋となっている。転倒等の危険から畳を利用される方もある。		